



発行所

太平山頂上鎮座

太平山三吉神社総本宮

宮司 田村 泰教

秋田市広面字赤沼3の2

電話 (018) 834-3443

F A X (018) 834-3444

<http://www.miyoshi.or.jp>



夜明け（太平山から望むご来光）

宮司 田村 泰教

米大リーグでMVPに輝いた投打二刀流の大谷翔平選手、そして若干十九歳にして四冠を達成した将棋の藤井聡太竜王。その躍動はコロナ禍に沈む世の中を照らし、私たちに多くの光を与えてくれた。歴史に名を残すであろう若者の奮闘を、目の当たりにできる幸運に感謝したい。▽全く異なる分野のふたりに共通するのは、異次元の成績を残しても、決して奢らない謙虚な人柄。そして更なる高みを目指し、不断の努力を重ねていく姿勢だろう。子供たちに夢と希望を与える存在であり、良いお手本でもある。▽コロナ禍のもとで二度目の年末年始を迎える。幸い今は感染状況も落ち着いてはいるが、新型変異株も見つかり、第六波の到来も囁かれる。このまま穏やかに新年を迎え、コロナと共生しながら元の平穏な暮らしを取り戻していけるように。「夜明け」は、すぐそこに迫っていると信じたい。▽来る令和四年、ふたりの活躍を始め、多くの明るい話題やニュースに満ちた一年となるように。▽「終わり良ければすべて良し」「一年の計は元旦にあり」この大切な時期を、気を緩めずに過ごしたい。

大神様の御守護のもと、どうぞ良いお年をお迎え下さいますようご祈念申し上げます。

森町大火の思いを新たに

森三吉神社

宮司 本庄 雅美



森三吉神社は、昭和56年に新築され現在に至っています。大火当時、家族は旧神社（昭和17年建設、戦時中のため仮の造り）の社務所に住んでいました。

昭和36年10月23日の大火当日、私は新川町の佐々木和雄宅へ泊まりがけで行っていた。

寝入った深夜、サイレンがけたたましく鳴り、起きてみると空が真っ赤に染まっていて、これはただ事でないと言ふことで、家に帰ったのが夜中12時頃だったと記憶している。

その時の事を、現の坂本総代長が掛潤（砂原西）の自宅からも、すぐそこで燃えているように鮮明に見えたと伺っています。

先代の父は、私が8歳のときに亡くなっており、我が家は、母と妹の3人家族。

火は猛烈な勢いで近づいてきたが避難せず家にいた。心細く、ただただ恐怖感に襲われていた

の思い出す。

あの頃、冬支度でこの家も暖房用の薪を家の周りに積んでいたので余計に燃え広がったのだろう。

当時の住宅は殆どが木造で、外壁は下見板造り。

屋根はトタンのほか桎屋根も多く、砂の付いたフェルトの防水紙にコールドールを塗っている家もあった。

木造だから火の勢いは早く、火災は強風でアツトという間に前門通りに押

し寄せ、現のマルミ吉田商店近く

まで迫り、火はいよいよ神社の目の前まで押し寄せる。

多くの方々はリヤ

カで家財を持ち出すなど避難する人々を目の辺りにしていた。



神側道向かいに綿工場、周辺の住宅や長

屋は密集しており、その殆どの建物が焼失。

風が増し、火の粉が飛ぶ。常盤町、水車の方へ飛び火。常盤

橋近くのマルハチ蒲鉾工場で、油の入ったドラム缶が破裂した

爆音はすさまじいものであった。朝になって鎮火したものの、

くすぶる周辺は焼け野原。当時10歳の私は只ただ喪失感にさいなまれたものです。

我が家で避難しなかったのは、何としても神社を守らなければ、

場合によっては御神体を持出さなければの一心であったと、後年、母に聞かされた。

隣家が燃え、神社の目前まで火が迫ったが、直前で勢いが止り火難を除けたのは、境内に柳の木や

オンコの木があり、防火の一助になってくれたのでしょう。



の社」と言われてきた。住む家をなくした罹災の方々、さぞや呆然自失のことだったか。

すぐさま森小学校の体育館が避難所となる。当神社にも近所で罹災した方々の数家族が泊まり込んだものです。

全国からの復興支援にどれほど勇気づけられたことか。

空が真っ赤に染まり、この世のものとは思えない光景だった。火災の恐ろしさは今でも忘れることができない。

60年前に森町で大火があった事に思いをはせ、より一層、防火意識を高めていかなければとの思いで、森町大火から今年で60年を機に、境内に大火の歴史を伝える移動式看板を設置した。

「災いは忘れた頃にやってくる」町に深

刻な爪痕を残した大火のことを、

次の世代に伝えて行かなければ

と、思いを新たにしています。



言挙げ
76

あつという間？

権禰宜 小池 主 眞



この

コロナ禍
の状況の
中、総じ
て時間が

経つのを早く感じている。

私は現在28歳であるが、この時間の感じ方が年齢によるものなのであれば、この先一体どのような感じ方になってしまふのであろうかと興味もあれば怖さもある。単純に考えるならば来年1年は28年分の1年という感じ方になるのかもしれない。あつという間に過ぎた人生だったと感じるのかどうかは、その時にならないとわからないと思うが…

今年私は祖母を亡くした。

コロナ禍の状況でも家族が側で最期を看取ることができたことは唯一救いであつたと思う。あまりにも急なことであつたために正直かなりこたえた。どうしても頭にあるのは若いときの姿であり、年老いていく姿を見たくなかつた認めたくなかつた。現実はずるである。葬儀はつつがなく進めた。行したが、とても長く感じられた。

多くの人にとって時間というものは一定で、同じ時間の中を生きていけると言っているだろう。しかし感じ方は人それぞれである。友人と楽しく遊ぶと短く感じ、悲しいこと

があると長く感じる。時間というものが如何に主観的なものであるかというのを改めて知った。このコロナ禍の緊張と不安は、多くの人の時間を短くしたのだろうか長くしたのだろうか。

人生100年時代ということが少し前に言われ、現在平均寿命は男女合わせて85歳くらいのものである。私は85年という時間をとても長い年月のように想像する。途方も無い時間である。しかし、だいたい人間は1日の3分の1は寝ている。これも単純に考えると、85年の3分の1にあたる約28年は寝ている計算になる。今までの自分の生きてきた時間全てが寝ている計算になるのである。あまり考えたことがなかっただけに、これは正直なところ驚きである。残りの約57年間が自由な時間だと思うが、これも成人するまでのことを考えると実

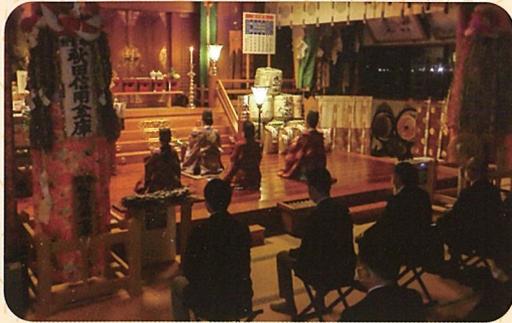
際に行動できる時間はもっと短くなってしまふだろう。そう考えると85年という時間はあつという間にやってきてしまふのかもしれない。まだ28歳と高をくくっていると痛い目にあう気がしてならない。やりたいことがあるなら目標を立て、真剣に計画的に取り組む必要があるだろう。きっとその時間は短く感じるのではないだろうか。

皆さんは今年一年どうでしたか。長かったですか短かったですか。どうか良いお年をお迎えください。



入社当時

みよしスケッチ



秋季例大祭 十月十六日・十七日



七五三詣



愛着のある人形に感謝を捧げ、お焚き上げ神事を行いました。

人形感謝祭 十月二日



古くなった印鑑や表札を供養し、印章塚にお納めしました。

印章供養祭 十月一日



自衛警備隊総会 十月十日



協会会境内整備作業 十月九日

奉納者ご芳名

二、境内東側入口掲示板

ジェイテクト

IT開発センター秋田 殿



※広報掲示物が無かった東側入口に掲示板をご奉納頂きました。

梵天打合せ会

十二月二十六日

令和四年の三吉梵天祭の打合せを行いました。



神宮大麻・曆頒布始奉告祭

十二月九日

新年の神宮大麻・曆の頒布始祭を斎行致しました。



春祈禱打合せ

十二月九日



秋田大学教育文化学部
附属中学校職場体験

十二月二日



神符守札遷霊清祓式

十二月七日



厄年・年祝いのご案内

厄年のお祓いや還暦・古稀などの年祝いを迎えられた方々の無病息災・除災招福のご祈願祭を随時行っております。(団体様やホテル等での出張祈願をご希望の方はお気軽にお問合せ下さい。)

令和4年 壬寅 (みずのえとら) 厄年・年祝い一覧

	干支	男性	女性	年齢(かぞえ)
大正13年生	子(ねずみ)	白寿(はくじゅ)		99歳
昭和8年生	酉(とり)	卒寿(そつじゅ)		90歳
昭和10年生	亥(いのしし)	米寿(べいじゅ)		88歳
昭和18年生	未(ひつじ)	傘寿(さんじゅ)		80歳
昭和21年生	戌(いぬ)	喜寿(きじゅ)		77歳
昭和28年生	巳(へび)	古稀(こき)		70歳
昭和36年生	丑(うし)	後厄		62歳
昭和37年生	寅(とら)	還暦(かんれき 大厄)		61歳
昭和38年生	卯(うさぎ)	前厄		60歳
昭和55年生	申(さる)	後厄		43歳
昭和56年生	酉(とり)	大厄	厄	42歳
昭和57年生	戌(いぬ)	前厄		41歳
昭和60年生	丑(うし)		後厄	38歳
昭和61年生	寅(とら)	厄	大厄	37歳
昭和62年生	卯(うさぎ)		前厄	36歳
昭和64年・平成元年生	巳(へび)		後厄	34歳
平成2年生	午(うま)	厄	大厄	33歳
平成3年生	未(ひつじ)		前厄	32歳
平成9年生	丑(うし)	後厄		26歳
平成10年生	寅(とら)	大厄	厄	25歳
平成11年生	卯(うさぎ)	前厄		24歳
平成14年生	午(うま)	成人		満20歳
平成15年生	未(ひつじ)		後厄	20歳
平成16年生	申(さる)	厄	大厄	19歳
平成17年生	酉(とり)		前厄	18歳
平成22年生	寅(とら)	十三参り		13歳

※年齢は数え年ですので、誕生日にかかわらず新年を迎えると一つ年をとります。



どんど祭

1月30日
(日)

午前10時～午後3時

お正月の松飾りや縁起物、或いは古い神札・お守りなどをお焚き上げいたします。当日ご都合のつかない方は、事前に古神札納所にお納め下さい。

～書籍やぬいぐるみ・置物・写真など神社にご縁のない物や不燃物はお預かりできません。

- 人形類は 10月1日の人形感謝祭にお持ち下さい。
- 環境への配慮からビニール袋等は外してお納め下さい。

令和4年 上半期主な祭典・行事予定

1月1日(土)	午前零時	歳旦祭	新年の始まりに国家の安泰と皆様のご安寧をお祈りいたします
1月17日(月)	神事 午前6時	梵天祭	1年の無病息災と安泰を祈り、梵天を奉納する秋田の冬の伝統行事 <u>※今年は拝観できません。終了後に境内にお飾りした梵天をご覧下さい。</u>
	奉納 午前8時~9時半		
1月30日(日)	午前10時	どんと祭	古くなったお札やお守、お正月の縁起物などをお焚上げいたします(6頁参照)
2月3日(木)	午前10時	節分祭	季節の変わり目にあたり、身体健やかに、心穏やかに、過ごせますよう福豆をまき供えて除災招福を祈ります
2月11日(金)	午前9時	紀元祭	神武天皇建国の偉業を偲び、国の弥栄と世界の平和を祈念いたします
5月7日(土)	午後6時	春季例大祭宵宮祭	五穀豊穡を始め家内安全、各種産業の発展を祈る春の例大祭
5月8日(日)	午前11時	春季例大祭当日祭	
6月30日(木)	午後3時	夏越の大祓	一年の上半期最後の日に、身に積もった罪けがれを祓い清めます

師走の大祓式

〜コロナ禍収束祈念〜

この一年の間、知らず知らずの内に自分の身に積もった罪けがれを、祓い清め、清々しく令和四年を迎えると共に、コロナ禍の早い収束を祈ります。

ご多用とは存じますが、是非ご参列下さいますようお願い申し上げます。

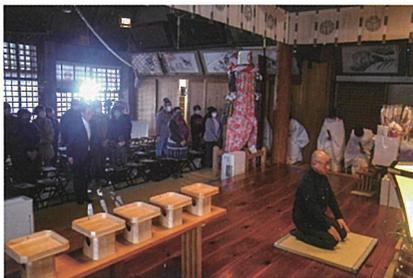
記

一、日時 十二月三十一日(金) 午後二時

一、於 神社拝殿

○ご都合のつかない方は、形代でご自身の身を祓い清め、随時ご持参又はご郵送下されば三十一日当日神事ご奉仕の上、御神符をお送りいたします。

○当日ご参列の方は、参列できないご家族の方の形代をご持参下さい。感染対策を十分に行いますが、例年より参列人数を絞って頂けると幸いです。



※形代(かたしろ)は神社にございますので、必要な数をご連絡下さい。

年末年始のお参りについて

現在、コロナの感染は落ち着いておりますが、新たな変異株も見つかり先行き不透明な状況にあります。

当社では、引続き下記の通り対策を実施して、皆さまに安心安全にお参り頂けるよう努めて参ります。何卒、ご理解ご協力のほど、切にお願い申し上げます。

《感染対策など》

- ・神社内でのご祈祷は、原則としてワクチン接種完了もしくは陰性が確認できる方にお入りいただきます。
 - ・三が日の混雑時は、参拝経路を変更いたします～密を避けるため、迂回へのご協力をお願いいたします。
 - ・マスク着用の上、お参り下さい。また神社にお入りになる方は手指の消毒と検温にご協力願います。
 - ・鈴は当面の間、使用できません。また厳冬期、手水舎を閉鎖いたします。
 - ・御朱印は印刷での対応といたします～カラー版・梵天、太平山図柄入り～
 - ・神社内各所に、空間除菌機器と加湿器を設置します。
 - ・祈祷の際は、係の誘導に従い適度な距離を空けてお座り願います。
- また、祈祷終了後の密を避けるため、玉串拝礼後に、順次ご退出頂く場合がございます。

●お守り・お札の授与所について

- ・新年のお札・お守り・縁起物は、既に授与を開始しております。尚、11月中旬から2月までの間の週末・祝日、また12月25日～1月10日の間は、臨時授与所を開設いたします
- ・三が日は、東側武道場にも授与所を設けますので、空いている所をご利用願います。
- ・ビニールの仕切りを設け、奉仕員はマスク・フェイスシールド・手袋着用の上、対応いたします。
- ・状況により開設時間を短縮する場合がございます。

●ご家族などでのご祈祷について

- ・出来るだけ少人数でのご参列をお願いいたします。
- ・仕事始めの期間（1月4日～7日）は極力お避け下さい。

●企業・団体様のご祈祷について

- ・仕事始めの（1月4日～7日）の期間は、各団体5名様までの参列とさせていただきます。（その他の日のご参拝については、お問合せ下さい）
- ・席は団体毎にお座り頂きます。

《ホームページからの祈祷・授与品のお申込》

当社では諸事情により、ご参拝が叶わない皆さまの篤いご崇敬の念に応えるため、下記の通りネットによる各種お申込を承っておりますので、是非ご利用下さいませ。

※詳しくは神社ホームページ (<http://miyoshi.or.jp>) もしくは右記QRコードからご覧下さい。



◀ ネットからの
お申込み

令和4年三吉梵天祭について

秋田の冬の風物詩【三吉梵天祭】は、残念ながら明年も拝観者を入れずに斎行いたします。また密を避けるため＜けんか梵天＞による先陣争いもご遠慮いただくこととします。令和5年には、是非勝負の神・力の神にあやかる勇壮な梵天祭を実施したいと存じます。

※祭事：令和4年1月17日（月）午前6時（ご参列は可能です）